

ILAS で観測されたクロリンナイトレイトの高緯度における挙動

CIONO₂ behavior at high latitudes revealed by the Improved Limb Atmospheric Spectrometer (ILAS)

林田 佐智子[1]; 池田 奈生[1]; 戸田 庸子[1]; 杉田 考史[2]; 中島 英彰[3]; 入江 仁士[4]

Sachiko Hayashida[1]; Nao Ikeda[1]; Yoko Toda[1]; Takafumi Sugita[2]; Hideaki Nakajima[3]; Hitoshi Irie[4]

[1] 奈良女子大・理; [2] 環境研, 衛星; [3] 環境研; [4] FRCGC/JAMSTEC

[1] Faculty of Sci., Nara Women's Univ.; [2] Satellite Team, NIES; [3] NIES; [4] FRCGC/JAMSTEC

<http://www.ics.nara-wu.ac.jp/lab/ozonegroup/index.html>

ILAS のリトリバーバルアルゴリズムバージョン 6 ではクロリンナイトレイトの導出が可能になった。ILAS は 1996 年 1 1 月から 1997 年 6 月まで両半球の高緯度帯で継続的にデータ収集を行った。本研究では CIONO₂ の時間発展を ILAS すべての観測期間について議論する。ILAS は南極では一冬の観測はできなかったが、北極では顕著なオゾン破壊のあった 1997 年の冬の観測を行うことができた。また、両半球でのオゾン破壊からの回復期には観測を行っており、両極の比較も可能である。